

1 【活動の趣旨】

校章の「なでしこ」の花を育てることにより、親しみを持ち、愛校心を育てる。校地内にある学校田で地域の方の協力を得て稲を育て、地域の人との関わりを深めたり、自分たちが食べているお米の生育を学んだりして、感謝の心を育てる。他学年においても、野菜作りなどを通して、地域の方の知恵を学び、優しさに触れ、交流を深める。学校と家庭、地域の方が連携して、子どもたちの学びをより豊かなものにするように努める。

2 【特徴的な活動内容】

○「なでしこの花を育てよう」

環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、なでしこの苗を植え、日々世話をし、育てている。また、本年度から4～6年生の有志児童による種からの育成にも取り組んでいる。

○「水のめぐみ“米づくり”（5年）」

○「サツマイモ作り（1年）」

第5学年の総合的な学習の時間では、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしており、草ひきなどの世話も児童と共に実施している。第1学年では、サツマイモづくりも実施しており、例年は、収穫後に「お米パーティー」や「サツマイモパーティー」を開催し、学んだことの発表会や収穫したお米やサツマイモをともにいただきながら交流を深めている。



【人力で脱穀】

3 【実施に当たっての工夫】

密を避けるために、学年ではなく学級単位での活動に切り替え、マスクの着用、事前事後の手洗い消毒の指導も徹底した。事前打ち合わせでは、ボランティアの方の想いや活動の工夫などを伺い、活動学年の担任や関わる児童に伝えることで、学校とボランティアがともに活動をつくっていけるように心がけた。

4 【事業の成果】

継続して取り組んでいることがボランティアの方の「私たちが草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。関わりが深まることで、児童は「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。

5 【事業実施上の課題】

継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、学校職員と共に考える場をさらに設けたい。ボランティアの方々の高齢化が目立つこともあり、PTAや地域の方々の参加協力を得られるよう学校から地域へ発信していきたい。